

2020年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495600452	事業の開始年月日	平成30年3月1日
		指定年月日	平成30年3月1日
法人名	ヒューマンライフケア株式会社		
事業所名	ヒューマンライフケア新百合ヶ丘グループホーム		
所在地	(215-0005) 神奈川県川崎市麻生区千代ヶ丘1-16-6		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	2020/10/21	評価結果 市町村受理日	令和3年8月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご自分のペースでゆっくり過ごしながらも、ご利用者の持っている力を維持できるように活動に参加していただいています。現在、コロナウィルスの影響のため、LINEやZOOMを利用した、ご家族様との面会を希望に応じて実施しております。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和2年12月28日	評価機関 評価決定日	令和3年6月3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は小田急線「新百合ヶ丘」駅よりバスに乗り、バス停「千代ヶ丘一丁目」下車、徒歩3分の場所にあります。すぐ近くに保育園があり、周りは閑静な住宅街です。敷地内には広い庭と共に駐車場もあります。晴れた日には事業所の2階から富士山が眺められます。

<優れている点>

明るい住環境のもと、職員は利用者一人ひとりに寄り添い、「ちいさなできると「うれしい」の積み重ねを大切に、日々支援に努めています。開設当初から地域との関係を大切に、ミニキッチン付きの地域交流スペースが設置されています。地域住民は無料で利用でき、趣味のサークル活動などに利用されています。また、事業所の1階、2階合同のレクリエーションとしても活用しています。リビングでは新聞を読む人、テレビに見入る人、好きなものを飲みながら職員と談笑する人など、利用者は穏やかに寛いでいます。食事の手伝いや廊下の掃除、荷物運びの手伝いなど、利用者が役割を持って生活できるよう支援をしています。

<工夫点>

日ごろから本人や家族の意見・要望を把握するように努めています。現在のコロナ禍の中での家族対応を検討し「新百合丘通信」の発行で利用者の状況をこまめに伝えたり、面会に制限がある中でLINEやZOOMによる面会など家族の要望に応じ取り入れています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ヒューマンライフケア新百合ヶ丘グループホーム
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は作成し掲示している。実践につなげられるように日々のサービスを行っているが、共有し全員が実施できているとは言えない。	法人理念は「為世為人」事業所独自の理念は「面目躍如」です。開設時に職員皆で決めた理念には利用者を大切にする職員の思いが込められています。必要な人に、必要なサービスの提供をしています。事業所の理念は玄関の壁面に掲示してあります。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	以前は、地域交流スペースの貸し出しなどで交流があったが、現在はコロナウイルスの影響もあり交流が持ていない。	散歩や買い物では、職員と利用者は近隣の人と挨拶し気軽にて交流するようにしています。地域交流スペースとして、ミニキッチン付きの部屋を地域住民に無償で貸し出しています。現在は地域の趣味の教室などで利用されていますが現在はコロナ禍で自粛しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域交流スペースを貸し出したり、ボランティア演奏などを行っていただくことで、認知症の方との関りを持っていただいたり理解に努めていたが、現在はコロナウイルスの影響もあり行えていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在、コロナウイルスの影響により開催を中止している。会議内容を職員全体に対して周知はできていないように思う。	例年、2ヶ月に1回、地域包括支援センターや自治会々長、民生委員、家族に案内を出して開催しています。主な活動、行事、事故などの報告の後、地域行事の情報交換をしています。出席者の要望や助言をもらい、家族からの要望などで、出来ることはすぐ実施しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活保護課など関係機関と必要時に連絡をとっている。また、認定更新手続きや認定調査の際に、調査員の方などにお伝えしている。	認定更新のため介護保険課と、生活保護受給者である利用者支援のため保護課とよくかかわっています。生活支援を受けている人の担当ケースワーカーとは、利用者の病院受診や現状の報告をして、情報の共有をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	3か月に1度、身体拘束廃止委員会を行っている。身体拘束にあたらないようにケアを心掛けている。身体拘束について正しく理解するよう自身でも調べている。	「身体拘束廃止委員会」を設置し3ヶ月に1回開催し、研修は3ヶ月に1回の頻度で虐待やスピーチロックについて行っています。研修後に参加者は報告書を作成しています。法人として「身体拘束防止マニュアル」を整備しています。安全のために玄関は施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修にて学ぶ機会をもっている。7月27日に実施済み。職員間でも話し合い、注意し防止に努めている。研修はしたが、それだけでは学ぶ機会が少ないとも思う。注意はしているが不安になることもある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	計画作成が関係者と話し合いや対応を行っている。現状では、研修などで学ぶ機会を設けることはできていないが、個々で勉強し理解しようとしている職員もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は十分なお理解をいただけるよう時間をとり、質疑応答を行いながら対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご来訪の際にご家族とお話しをご要望等があればお聞きしている。ご利用者については、日頃の交流の中で要望を聞き、反映できることはしている。	何か小さなことでも、利用者の変化や要望があれば、家族に連絡するなど連携を密にしています。利用者からは、日常の何気ない会話や表情などから要望や希望を把握し、運営に活かしています。Webのアプリケーション利用の面会要望などはすぐ取り入れ、喜ばれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	計画作成担当者がユニット間でのミーティングや日頃のコミュニケーションの中から意見などを聞き出し、反映に繋げている。	管理者、計画作成担当者はフロア会議などの会議の場だけでなく、日ごろから職員とコミュニケーションを取り、意見や提案を把握し、改善に繋げています。事業所の行事の企画、排泄ケアの方法などの提案は、すぐ検討し取り入れています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	昇給制度もあり、職場環境等の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	マイスター制度という社内資格がある。そのほかにも認知症ケアマスターという新たな社内資格も誕生しており、学ぶ機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	全職員ができてはいないが、管理者などは研修の機会も増え、社内の他事業所の職員と関われる機会が増えている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご利用前には、事前訪問にてご本人のご様子を伺ったり、お話をする時間を設けるようにしています。利用開始当初は不安なこともあるので、ご本人の話を聞いて不安な気持ちを取り除けるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご利用前の見学や、事前訪問、契約時などにお話しする時間を設け、ご家族の要望等を伺っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	お話を伺ったり、事前訪問をした際に必要な支援を見極めている。また、ご利用開始後もご本人やご家族のお話を聞いたり、施設でのご様子を伺いながらサービス内容については調整している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	食器拭きや洗濯ものたたみなどの家事を一緒に行っている。施設での役割を持ってもらうため、当番表も作り毎日の日課としてできることを行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	現在は、コロナウイルスの影響から面会への制限があるが、電話でお話ししていただいたりご家族との関係は大切にしている。ご本人への必要な支援については、適宜連絡をとって協力いただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナウイルスの影響により、現在は面会や外出ができない状況です。電話でお話しして頂いたり現在、できることを支援している。ご本人の好きなお店の料理をテイクアウトして召し上がって頂いた方もいる。	利用者の友人が来訪しやすいように雰囲気づくりに配慮しています。家族の協力で、以前から利用している美容院にカットに通っている利用者もいます。コロナ禍では外部との交流は自粛しています。馴染みの店にテイクアウトを依頼することもあります。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	交流を持てるようにしている。気の合う方と作業を一緒にしていただいたり、複数人でお話しができるよう職員が介入したり支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	状況に応じて、ご家族様たちとご連絡している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	コロナウイルスの影響により散歩や外出についての制限もあり、現在はご本人の意向を伺うだけになってしまうところもある。施設内でできることに関しては検討しできることを実行している。	意思表示が出来る利用者には日頃の会話から意向の把握を行っています。意思表示が難しい利用者には表情や行動、何気なく漏らす言葉から、意向や気持ちを汲み取っています。また、今までの生活歴や家族からの情報も大切にしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前情報以外にも、日頃の交流の中からご本人の生活歴等を聞くようにしている。極力、ご本人に聞いて理解するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の変化があるため、調子をみるようにしている。顔色や表情、歩き方など変化があるか注意して観察している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ミーティングや日々の申し送りのなかで意見等を出し合い、日々のケアにて実践し、介護計画に反映している。	主治医や看護師の意見も取り入れ多職種で意見を出し合い、本人、家族の要望を聞き介護計画を作成しています。「わたしの暮らしまとめシート」に以前と現在の暮らし、できること、支援して欲しいことなど細かく記載しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録には詳細を書くように意識している。そのほかに申し送りノートを使い、情報共有に努めている。個別に支援を実施しての様子や、新しい支援を実施しての状況を共有できる個別ノートを作成している方もいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	コロナウイルスの影響もあり、外出制限もある中での対応のためできていない部分もある。施設内でできることに関しては柔軟に対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナウイルスの影響もあり、できていない部分もある。地域とのかかわりがなかなか持てない状況のため、施設内でご本人が楽しめる取り組みをできるように工夫している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の往診にて対応している。必要時は外部受診も行っている。	内科は月2回の往診ですが、歯科は月4回の場合と本人の訴えに応じて、不定期で利用する2パターンがあります。かかりつけ医以外の診療には、診療情報提供書のやり取りで連携しています。退院前カンファレンスには、かかりつけ医の看護師も参加しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に1回、訪問看護が入る。その際に日頃の様子等を伝え、相談も行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換等を行っている。退院については受け入れ態勢を整え、ご本人の状況把握のためカンファレンスに参加したり退院前に面会するなど状態把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	1階ではまだ看取りは行っていない。今後の重度化を考え、研修にて必要なケアについて学んでいる最中である。	終末期に向けた方針を家族と改めて確認し、支援に努めています。医療行為については医療機関と連携を取り家族の方針に基づき対応しています。看取りを経験した職員を中心にして、拠点としての看取り時に必要なケアについて研修を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時には必要な措置をとり医療関係に連絡を行っている。対応方法についてはフローを貼りだしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回、避難訓練を行っている。地域との協力体制については、まだ築ききれしていない。	ラジオ付きの自家発電できる懐中電灯を各階に備えています。災害発生時には、各々の職員が何をするか書類にまとめ掲示しています。災害時の備蓄品は倉庫に保管、毎年棚卸しで確認します。施設の地域交流スペースが災害時に活用される可能性もあります。	現在は風水害、地震と大きな災害があり、災害時には地域の協力が欠かせません。日頃から運営推進会議で協力を依頼するなど、地域との協力体制を築いていくことが期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	相手を敬い話すよう心掛けている。対応についてもミーティングで話したり、注意したほうがいい点についてはどのように改善していくか検討している。	相手を敬い話すよう心掛け、どのように改善していくか検討しています。スピーチロックの研修も事業所内で行っています。指導が必要な場合は各階の計画作成担当者が行っています。全職員対象のスタッフ基礎研修をe-ラーニングで実施しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定の一環とし、14時にはメニュー表の中から好きな飲みものも選んでいただくようにしている。ご本人の思いや希望を言えるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	強制するのではなく、自身でやりたいことを決めていただくようにしている。ご本人の希望に合わせ、臨機応変に動くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自身で選んでいただくようにしているが、季節に合った服装になるように助言はしている。お洋服が汚れてしまった際には着替えを促すなどしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	下膳や食器拭きなど片付けは一緒に行っている。食事量の減っているかたについては、ご家族協力のもと、追加でご持参いただいたおかずを提供している。	食事量の減ってきている人に、家族協力で持参してもらった、副菜提供も可としています。誕生日会にフライドチキンやインスタントラーメンなど、いつもと違った食も提供しています。、下膳や食器拭きなど片付けは、一緒に行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	日々、記録をしている。水分のなかなかとれない方については、好きな飲み物を提供したり、ゼリーを提供するなどして水分をとって頂いている。食事については、体重等も確認しながら量の調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後に声かけし口腔ケアを実施している。訪問歯科を受けている方は定期的にクリーニングを受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	おむつの使用はなるべくせず、トイレにて排泄できるよう誘導等を行っている。	「排泄表」を活用して個人のパターンを把握し、声掛けによりトイレで排泄が出来るよう誘導をしています。各フロアーには、二人介助も可能な広いスペースのトイレもあります。体調不良などの場合にも、自立排泄支援がしやすい環境が用意されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の方については、医療機関とも連携をとっている。便秘がちの方には牛乳を提供したり、水分を多くとっていただくよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	気乗りしない日は翌日にずらしたり、ご本人のタイミングに合わせている。	入浴は週2回を原則としています。気乗りしない日は翌日にずらし、本人のタイミングに合わせて入浴を楽しんでもらうようにしています。季節によって菖蒲湯やゆず湯を提供しています。シャワー浴を行う場合でも香りを楽しんでもらっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	体調に応じて休息を促したりしている。21時消灯とはしているが、ご本人の習慣に合わせてながら対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医療関係とも連携を図りながら対応している。薬の変更時には申し送りにて職員間で共有し、状態観察とうを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	コロナウイルスの影響もあり、現在は外出ができていない。役割をもつていただくために当番表にてその日の役割を分担している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在はコロナウイルスの影響もあり、行えていない。コロナウイルスの感染状況が落ち着き次第、外出を再開予定。	各利用者の外出頻度を落とさないよう努めていたが、コロナ禍で中断しています。廊下や居間掃除などの当番表を作り、家事をしてもらう事や、車椅子利用者に下肢筋力が落ちないように車椅子からの立ち上がりなど、少しでも体を動かすよう心がけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	預かり金として、お小遣いをお預かりしている。必要なものについては、ご家族と相談しながら購入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人が電話をしたいときに電話して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	壁面に季節の飾りを装飾している。気候に合わせた温度調節を行っている。	共用空間には、コロナ禍以前から、清掃・消毒・換気・湿度・温度等に配慮しています。フロアにあるソファには、席から離れた利用者を誘導し、多くの人とコミュニケーションが取れるように配慮しています。共有空間の飾りつけは、利用者にも協力してもらっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う方と席が近くなるように席を配置している。ソファにてくつろいで頂くこともある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自宅から家具などをお持ち込みいただく方もおり、希望にあわせて対応している。和床希望の方には和床対応している。	事業所が用意した備品の他、利用者が慣れ親しんだ家具も持込んでいます。職員は、フロア内の全ての利用者を担当している意識をもって支援しています。居室内の清掃と整理整頓も、本人の希望で、職員と一緒にやったり、自分でする人など、心地よくしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご自分でできることを行って頂いている。その際に危険のないように導線部にはものを置かないなど気を付け、職員間でも共有し、その時の状態に応じて対応している。		

事業所名	ヒューマンライフケア新百合ヶ丘グループホーム
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は作成し掲示している。実践につなげられるように日々のサービスを行っているが、共有し全員が実施できているとは言えない。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	以前は、地域交流スペースの貸し出しなどで交流があったが、現在はコロナウイルスの影響もあり交流が持てていない。ただ地域包括支援センターより調査依頼受け書面で回答をしている実績がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域交流スペースを貸し出したり、ボランティア演奏などを行っていただくことで、認知症の方との関りを持っていただいたり理解に努めていたが、現在はコロナウイルスの影響もあり行えていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在、コロナウイルスの影響により開催を中止している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	保護課担当者とは必要に応じて連携を取り、協力関係を形成できている。また認定更新の機会等で、調査員へ利用者の暮らしぶりを伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	三か月に一度、身体拘束委員会を実施し、参加できなかった職員は議事録を読んで理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束委員会の活動や事業所内研修を通して、虐待が事業所内で見過ごされることがないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者と職員は権利擁護に関する制度を理解しているが、理解の程度には差がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者は利用者や家族等に契約の締結、解約または改定等がある場合、具体的な説明を心掛けている。職員が利用者やご家族等から疑問や不安を聞いたときは、管理者に連絡がある。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様が職員に何でも話せるような雰囲気を作っている。職員が聞き取った内容は、申し送りノートやミーティング等で共有している。ご家族様よりZOOMを介した面会の希望があり実現した。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の業務の中で、ストレスを抱え込まないように申し送りの時間以外にも話を聞く時間を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	外部研修の情報などは休憩室で閲覧が可能になっている。社内資格としてマイスター制度がある。社員は必須資格となるため順次取得している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部での研修案内などのプリントなどを休憩室に置き、機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	全職員ができてはいないが、管理者などは研修の機会も増え、社内の他事業所の職員と関われる機会が増えている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ケアプランの作成では特に困っていることに焦点を合わせてアセスメントを行っている。また一度に、すべての情報を収集するのではなく、全職員で時間をかけてアセスメントしていくようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	本人、ご家族と話し合いデマンドと困っていることを確認。その上で職員、関係機関（医療等）と連携して対応を考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者様のストレングスに注目して、それを伸ばせるように支援している。ただ、まだ展開が十分でないところもある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご家族が通院、買い物、散歩などに連れ出したりして、ご本人を支えているケースがある。その後で家族と職員間情報の共有もできている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	基本、ご家族様にお任せしている。また、ご本人から要望がある場合には職員が介入して支援することもある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	気の合う方と同席となるように席配置をしている。必要時は職員が間に入り、交流することで、一人一人が孤立しないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	契約終了＝利用者がなくなるケースが多いため、支援継続は難しい。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	職員それぞれが、ご利用者様の暮らし方の希望、意向を把握するように努め、管理者と相談している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族様が来訪した際、ご利用者様のこれまでの暮らし方を聞き、それ以降のサービスに生かしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご利用者様の生活のリズムとストレスを把握するように全職員が努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメントを含め職員全員でケアに関して意見交換を行っている。管理者が意見を集約して介護計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	記録に残すだけでなく、申し送りノート、夜勤の申し送りノート、往診ノートを利用して、職員間の情報共有もできている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ご家族様にご利用者様の通院の付き添いをする事ができない場合、職員が病院への通院付き添いを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	コロナウイルスの影響もあり、外出制限もある中での対応のためできていない部分もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナウイルスの影響もあり、できていない部分もある。地域とのかかわりがなかなか持てない状況のため、施設内でご本人が楽しめる取り組みをできるよう工夫している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ホームかかりつけの訪問診療を利用している。病状に応じて外部の病院受診も行っている。協力医療関係にすぐに連絡できるので早い対応ができていると思う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1で訪問看護が入るため、日ごろの様子をお伝えし相談している。訪問看護では不安なこと、ご利用者に対してのことを助言頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な情報を提供している。退院前にはカンファレンスに参加するなど、退院日の調整は迅速に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時の契約の際に医師確認書を作成している。管理者からの説明があり、職員全員が共有できていると思う。本人や家族の意向をふまえ、往診医、訪問看護師、介護職員が連携をとれている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	特変時にはリーダーないし管理者に連絡をし指示を仰いでいる。応急手当の対応などの訓練を定期的には行っていないので、今後訓練が必要である。マニュアルがあり、説明されている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回、避難訓練を行っている。災害に備えた備品も倉庫に準備してある。夜間の訓練についてができていないため、夜間の対応の確認、訓練を今後行う必要がある。地域との協力体制も今後築いていく必要がある。ご利用者と避難訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	他利用者様に聞かれて嫌だと思ったりは離れた場所や事務所で話したりしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一人ひとりの状態に合わせ、本人が答えやすく、選びやすい声掛けないし働きかけを行っている。表出が難しい方は、ご家族様に確認する場合もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	できるだけ一人ひとりのペースを大切にし、それに合わせた対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	介助が必要な方でも自身で服を選択していただいたり、その人らしさを保てるように、お手伝いをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎食後、片付けを手伝っていただいたり、イベント食は準備にも参加してもらったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事は利用者様によって一口大に切ったり、刻み、ミキサー食で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自分でできる方は声掛けと見守りを行い、できない方は介助にて、毎食後行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表を確認しながら、職員がご本人に声掛けしてトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	朝、牛乳を提供したり、毎日の体操や水分補給の量に注意している。下剤を使用している方もいるが、便の状態を見ながら医師と相談し量の調整などを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴が好きな利用者様には時間が空いている時に入っているが、曜日や時間帯はほとんど決めてしまっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご本人の習慣に合わせてながら対応している。また体調に応じて休息を促したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の処方や量に変更があった場合は記録し、職員間で共有している。服用時は飲み込みまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	得意なこと、好きなことをお願いできそうなことを頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在はコロナウイルスの影響もあり、行えていない。コロナウイルスの感染状況が落ち着き次第、外出を再開予定。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	預かり金として、お小遣いをお預かりしている。必要なものについては、ご家族と相談しながら購入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族が承諾している利用者については電話、LINE、ZOOMでやり取りをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	壁面の飾りつけや、花を飾るなどしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを置いて、くつろげるようにしてある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	寝具や写真など思い出の品々を持ち込まれ、それぞれの利用者の居心地の良さを配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	本人の不安・混乱材料を取り除き、分かりやすい環境整備に努めている。		

2020年度

目標達成計画

事業所名 ヒューマンライフケア新百合ヶ丘グループホーム

作成日：令和 3年 8月 14日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	コロナ禍ということもあり地域の方々と交流することができない。	いつの日か再び地域の方々交流する時に開催するイベントの準備をする。	職員とご利用様が協力して、近くの保育園にプレゼントできる手作りのおもちゃなどを製作してストックしておく。	6ヶ月
2	2	外出がでないため筋力が低下してきている。	できる範囲内でレクリエーションや体操の時間の活動量を増やす。	楽しみながら体を動かすレクリエーション（風船バレー）を企画して実施していく。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月